

「消費者問題シンポジウム in 京都」実施報告

平成 27 年 7 月 31 日
消費者委員会事務局

開催日時：平成 27 年 6 月 27 日（土） 13：30～16：30
開催場所：京都リサーチパーク（京都市下京区中堂寺粟田町 93 番地）
主 催：内閣府消費者委員会、
適格消費者団体 N P O 法人京都消費者契約ネットワーク
後 援：京都府、京都市、京都弁護士会、京都司法書士会
参加人数：81 人（関係者含む）

内容のポイント

< プログラム >

公開シンポジウム「エシカル・コンシューマーへの道」

1. 開会挨拶

高畠英弘 京都消費者契約ネットワーク理事長

2. 基調講演「消費者委員会の活動と消費者教育について」

講師：河上正二 消費者委員会委員長、東京大学大学院教授

3. 報告「消費者市民社会の実現に、消費者・消費者団体はここまでできる」

報告者：野々山宏 京都消費者契約ネットワーク副理事長、弁護士

4. パネルディスカッション

「消費者市民社会を目指した積極的消費者としての活動について」

コーディネーター：野々山宏 京都消費者契約ネットワーク副理事長、弁護士

パネリスト：植田広信 消費者庁消費者教育・地方協力課長

柴田弘美 京都生活協同組合副理事長

長野浩三 京都消費者契約ネットワーク理事・事務局長、弁護士

原 強 コンシューマーズ京都理事長

5. 総括コメント：消費者委員会委員長 河上正二

パネルディスカッションの概要

「消費者市民社会を目指した積極的消費者としての活動について」というテーマのもと、討論を行った。

<主なコメント>

- ・ これまでは消費者市民社会とかエシカル・コンシューマーというと、とても意識が高く積極的に消費者運動をしている人を想像していたが、難しいことではなく、昔から日常の中で、当たり前になってきた節約や知恵もエシカルなんだと気づかされた。
- ・ 消費者団体としてのこれまでの活動の延長線上に、消費者市民社会の活動もある。
- ・ 行政などが少額だったり、法的に難しかったりで手出しできなかったところに適格消費者団体が切り込んで改善を求めたところに適格消費者団体の非常に大きな存在意義があると思う。
- ・ 行政として若い方に働きかけていきたい。大きなムーブメントにしていきたい。京都府、京都市などの自治体では消費者教育が充実してきている。学校教育でも家庭科の教科書にフェアトレードが載っている。
- ・ 物があふれる中から自分の必要な物を選んで買うのがなかなか難しい。選択のもととなる情報が大事。意識的な行動をとろうとしても、そういう対象が見えないといけない。
- ・ 買い物は消費者の投票、1票。こういう候補者がいます。こういう政策があります。選択してもらうための情報を伝えないと選べない。また相応しい商品がないと、結果的に安いが一番になってしまう。
- ・ 消費者の声を社会全体に事業者にぶつけていくようなシステムがいるのではとっている。適格消費者団体の活動を通じて社会、消費者の信頼を得て、それを消費行動の提案にして、それに消費者がのっかり、一つの方向性を企業に提示できるような活動ができればと思う。消費者の行動で企業は変わる。企業が変われば消費者も変わる。相乗作用があると思う。
- ・ 消費者市民社会やエシカル・コンシューマーという言葉は最近できた言葉、概念。みんなが共通の概念として認識を揃えているものではないと思う。実践の中で出来上がっていくものと思う。そのプロセスをお互いが協働できるか連携できるかだと思う。
- ・ 適格消費者団体制度の仕組みに欠陥があると思う。世のため人のためは素晴らしい理念だが、その仕事は経済的には何もペイしない。仕組みづくり、推進のための体制づくりは必要と思う。
- ・ かつて民間で適格消費者団体を支援する基金があったが、広がりがなく枯渇して終わってしまった。適格消費者団体が、どういうものかということについても広がりが欠けていた。それは市民の皆様だけではなく企業に対しても欠けていたのかなと思う。重要な課題と考える。

<フロアからの質問・意見>

- ・ 新しい制度、特定適格消費者団体について教えて欲しい。
- ・ 消費者問題は身近な問題なのに、制度になると難しい。問題は日常生活の中で起きている。エシカル・コンシューマー、消費者市民社会、分かりづらい。皆に理解される言葉にしないと本物にはならない。
- ・ エシカル消費という言葉、心にもやもやが。倫理的消費、安いもの買ったらあかんのかと。ネーミングも、クールコンシューマーにしたらどうか。
- ・ エシカル消費はよりよい社会にするためのもの。その源泉は生活の現場にある。問題は社会が白黒一緒であること。例えば模倣品、偽物でもいいじゃないかという人も40%いるというアンケート結果もある。白が黒を抑え込むよう、またその力は、地方からくるもの考える。

<河上委員長の総括コメント>

自分の頭で考えて、どういう選択行動をとるのが社会にとっていいのか。きちんとわきまえていけるような消費者でないといけない。そのための情報の共有であったり、あるいは考え方について人間力を養うための教育であったり、今まで以上にしっかりやらないといけないと痛感させられました。今日の議論を、これからの消費者委員会の活動に是非活かしていきたいと思います。消費者庁の試算では消費者被害は6兆円以上。これが根絶されれば、健全な市場にまわっていくお金。そのような市場をつくるために、消費者団体などが活動しているとすると、これに投資するというのは効果が一番ある投資ではないかと思っています。今後、いろんな形の支援をお願いしたい。エシカル・コンシューマーという難しいテーマでありましたが、本日の議論で皆さんにも一定のイメージがわいたのではないのでしょうか。

また、河上委員長は、6月26日に西川京都府府民生活部長と門川京都市長を表敬訪問した。

以上